

ホトケドジョウの保護と繁殖

活動の場所

神奈川県川崎市麻生区栗木3-12-1
桐光学園 ビオトープ



活動目的

絶滅危惧種ⅠBのホトケドジョウの保護・繁殖をおこなっています。ホトケドジョウは、谷戸や湿地帯、山からの湧き水の細流に住む小型のドジョウで、冷水域が生育場所です。桐光学園のある川崎市・多摩丘陵では、いくつかの生育地域がありましたが、開発で次々と貴重な生育場所がなくなってきました。

活動内容

2004年 桐光学園はホトケドジョウの保護の為にビオトープを作ります。池とそこを流れる川からなるビオトープは、地下水をくみ上げ、ホトケドジョウの生育環境の冷水域を再現しています。ビオトープ完成1か月後には稚魚が泳ぎ始めます。池の周りには、極相林をつくるスダジイ3本とクスノキ1本を植えました。

2022年 右2枚目の写真が18年後のビオトープの様子です。月に一度、池にたまった落ち葉や、増えすぎた水草の除去、ビオトープ周りの雑草の刈込などを行っています。夏の水温上昇を防ぐために、水路の上には藤棚を作り日陰にしました。成長の遅いスダジイも大きくなり、涼しい環境を作ってくれます。1年に1回ほど、水路や池の底にたまった泥をさらっています。



PRしたいポイント

川と池からなるビオトープは地下水をくみ上げ冷水域の環境を再現しています。絶滅危惧ⅠBのホトケドジョウの保護・繁殖を行っています。

1978年（昭和53年）開校より生物科・生物部では、地域の生態系の観察を行ってきました。当時から開発されていく自然に危機感を感じていました。1980年の観察記録では、栗平地区でのホトケドジョウの画像も確認できます。

活動効果、今後の展開 等

- ビオトープの清掃・管理を徹底し、ホトケドジョウの保護・繁殖をすすめていきます。毎年多くの稚魚が生まれています。
- 敷地内に残る多摩丘陵の雑木林の生物調査をすすめます。たくさんの絶滅危惧種が生存しており、これらの生態調査および保護活動を進めていきます。